

## 第3回委員会での主な意見と対応

## 【第3回委員会】

場 所: 赤穂市役所6階 大会議室

日 時: 平成25年3月26日(火) 15:00~17:00

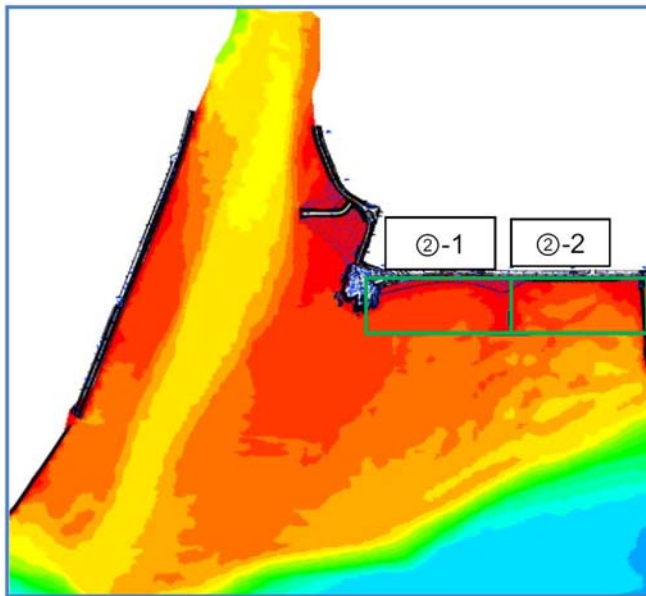
(1/2)

No	意 見	第 3 回委員会での回答	第 4 回委員会資料への反映
1	(資料2) H24年の泥の堆積は4月の爆弾低気圧の影響があったかどうか、その辺を言及できる結果になっているか？また、計算における不足はあるか？	H25年度調査でのイベントデータの取得により、現在のぬかるみ発生原因の仮説を検証していく必要がある。	H25.4に高波浪(有義波高1.41m)が来襲したと推定されるが、ぬかるみ分布はほとんど変化が見られなかった。(資料2)
2	(資料2) 今回の計算結果では、ぬかるみの発生要因として高波浪が必ずしも必要ではないと言えるか？	河川出水による泥の供給と高波浪による影響については、H25年度調査データから検討していきたい。	計算においても、海岸部での土砂の堆積よりも、侵食傾向が大きく、高波浪の来襲によってぬかるみが拡大することはなかった。(資料3)
3	(資料2) H25年夏の調査においてイベントデータが得られなかった場合においても、ぬかるみの発生原因を対策工の根拠として整理しておく必要があるのではないか？	イベント時のデータが得られなかった場合でも、出水、高波浪、潮汐がぬかるみの発生に対して何らかの影響を持っていることは確かなので、既存データも踏まえて今回提示した仮説に従って次の対策検討のステップに進んでいくことを考えている。	平成25年度調査において、4月の高波浪、9月の大出水があり、9月の大出水前後で海岸のぬかるみはやや分布が拡大した。(資料2) これらの調査結果、第3回委員会で提示した計算結果を踏まえ、ぬかるみ発生原因について整理した。(資料2)
4	(資料3) 暫定対策工事着手までは現在のままでモニタリングを続け、暫定対策工事着手後、地形が変化し、ぬかるみが無くなった状態で暫定対策の効果を調査で把握するということだが、暫定対策後、ぬかるみがまた発生する可能性もあるということか？	工事前の調査を4月から4ヶ月程度実施していき、イベント時のデータを取得したいと考えている。暫定対策後は、秋季の波浪による地形変化状況のデータも取得できると考えている。対策によって地形が変化するというリスクもあるが、限られた時間内で検討していく必要があるので仕方ない部分がある。	暫定対策工事後もモニタリングを継続実施中である。現時点では覆砂域にぬかるみは発生していない。(別紙2)

No	意見	第3回委員会での回答	第4回委員会資料への反映
5	(資料3)H25年の海水浴場開場に間に合わないのに、今年の夏に暫定対策(浚渫・覆砂)を行う意味はあるのか？本対策のためのデータを取ることが目的であれば、この暫定対策は理解できるが。	もともとは今年の夏季の海水浴場開場を目指したものであった。今年の夏の海水浴場開場には間に合わないが、今年の夏季に工事を行い、その後の経過をモニタリングしながら、その都度検討していきたい。	暫定対策は本対策実施のためにデータを取得することと、問題なければ次年度の海水浴場開場につなげることができるものとして実施している。
6	(資料3)バー・トラフが泥を封じ込める原因になっていることを把握できる暫定対策になっているか？暫定対策の効果が把握できるか？	対策範囲の東側にもバー・トラフがある。今後もぬかるみ分布調査を継続して実施するので、対策後においてもバー・トラフが残った場合と均した場合の地形変化やぬかるみ分布状況等のデータから対策効果の把握が可能と考えている。	10月に暫定対策工事が完了し、現在モニタリング実施中である。
7	(資料3)対策範囲のピンクとブルーの範囲で粒径を分けておけば、波浪に対する地形の変化状況が把握できるということか？	高波浪が来襲し、地形変化が生じれば、粒径の違いによる変化状況も見ていきたい。	第3回委員会当時は、現地流用砂、購入粗砂を用いた2区域で実施予定であったが、現地で確保できる砂の量が限られており、購入粗砂のみで実施した。購入砂の粒径設定については別紙1のとおり。
8	(資料3)1年に1回程度来襲する波浪に対して検討しているが、10年、20年の確率で来襲する波に対しては暫定対策の覆砂が全て無くなってしまう可能性がある。根本的な対策を講じていただきたい。	(未回答)	定期的な維持管理を実施する維持管理手法について整理した。(資料4)

波浪	エリア	最大せん断応力 (Pa)	$u_{*c}^2$ ( $\text{cm}^2/\text{s}^2$ )	移動限界粒径 ( mm )	備考
高波浪	②-1	0.31	3.1	0.55	$u_{*c}^2 = 8.41d^{11/32}$
	②-2	0.23	2.3	0.23	$u_{*c}^2 = 8.41d^{11/32}$
小規模波浪	②-1	0.17	1.7	0.10	$u_{*c}^2 = 8.41d^{11/32}$
	②-2	0.11	1.1	0.05	$u_{*c}^2 = 226d$

高波浪、小規模波浪作用時のシミュレーション結果より、エリア内の最大せん断応力を算出し、これに対する移動限界粒径を算定した。備考欄の算式は岩垣の公式であり、dは粒径で最大せん断応力に対する粒径(移動限界粒径)である。



○暫定対策工事实施前後の地形及びぬかるみ分布の状況

